

# 中山間地域における公共交通を用いた アクセシビリティの可視化とその評価

令和2年2月 吉津 俊作

## 要旨

### 目的

近年、中山間地域においては、高齢者や子供を中心とした、いわゆる「交通弱者」の生活の足の確保が喫緊の課題となっている。特に、生活関連施設へのアクセス確保は非常に重要である。そこで本研究では、長野県の小谷村を対象として、村営バスの利用を前提に、徒歩とバスの総移動時間及びバスの本数から、生活に不可欠な施設へのアクセシビリティを評価し、将来推計人口を考慮して、現状の改善点を考察した。

### 方法

基盤地図情報を用いて道路網データ及び100mメッシュ別将来推計人口データを作成し、メッシュの重心から最寄りのバス停までの距離及び歩行時間と、バス停から生活関連施設までの歩行時間を算出した。次に、小谷村の村営バスの時刻表データから求まるバスの所要時間を加味して、総移動時間を算出した。また、この総移動時間と各バス停から生活関連施設の最寄りバス停までへのバスの有効本数からアクセシビリティ（アクセシビリティ・スコア）を求め、GIS上にて可視化した。

### 結論

本研究では従来あまり検討されてこなかった中山間地域における公共交通を用いたアクセシビリティとしてアクセシビリティ・スコアを導き、可視化の方法を提示することが出来た。これにより、現状、村営バスとデマンドタクシーにより、住民への移動手段自体は概ね確保出来ているが、特に梅池北、梅池南、李平、深原、石坂等の地区においてはアクセシビリティが悪いと分かった。また、2050年までの将来推計人口からは、村全体で縁辺部の人口減少率が相対的に高くなり、将来的に生活関連施設へのアクセシビリティは若干改善される結果となった。しかし、交通弱者にとって、バス停と住居間の距離は長いため、自由乗降区間の採用がアクセシビリティの向上に繋がると考察した。

指導教員 藤居 良夫 准教授